I-11

美術館の改修計画に関する研究

A Study on Renovation plan of the Museums

○下村燿子 [1], 堀切梨奈子 [2], 佐藤慎也 [2]
*Yoko Shimomura[1], Rinako Horikiri[2], Shinya Satoh[2]

This study, regarding the renovation plan at the museum, deal with everything from everyday to large scale. To clarify the content of refurbishment, the timing of implementation, the history of the plan, and problems related to them. During the high economic growth period of the 1970s and '80s, many local public museums were built. Furthermore, in the 1990s, the most museums including private art museums were built. As of the 20th to 40th year since the 1990s, many art museums are carrying out extensive renovation. By investigating the renovation plan, guidelines for increasing renovation will be clarified in the future.

1. 序論

1－1. 研究背景

美術館は、コレクションの増加とともに展示室や収蔵庫の拡充が求められる建築物である。そのため、日常的な改修だけでなく、大規模な改修が行われることが多い。その理由については、経年劣化に伴うものだけでなく、社会背景に起因して、ユニバーサルデザインを取り入れたり、美術館自体の魅力を向上させることなどが挙げられる。さらに公立美術館は、社会教育法で社会教育施設と位置づけられており、美術の展示だけでなく、地域に対する教育普及活動を重視するように求められており、そのための諸室を新たに設ける場合もある。このように、美術館では様々な背景と目的によって改修が行われている。

1－2. 研究目的

本研究では、様々な改修計画に関して、実施数、実施年、背景と目的を明らかにし、実態を把握する。

1－3. 研究対象と方法

全国美術館会議[註 1)]および美術館連絡協議会[註 2)]に加盟している美術館（一部博物館を含む）の合計 532 館のうち、重複 125 館を除いた 407 館を対象とする。対象の開館年について、確認できた 384 館を 10 年ごとに見ると、地方公立美術館が各地に建設された 1970 年代から増えはじめ、1990 年代が最も多く 118 館開館している（図 1）。これらの研究対象に対して、web と書籍を用いた文献調査を行う。

1－4. 既往研究

これまでの美術館の改修に関する研究には、国立西洋美術館における空調設備改修計画案を示した研究[註 3)]や、更新された美術館を対象とし、展示室と収蔵庫の床面積の変化に着目した研究[註 4)]がある。また、全国の劇場・ホールを対象とし、その改修工事の実施時期や工事項目を網羅的に調査した研究[註 5)]がある。しかし改修計画全般を扱い、展示室や収蔵庫以外も対象に含めた研究はない。

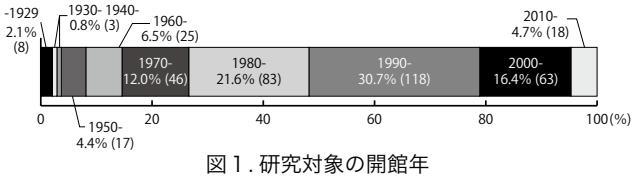

図 1. 研究対象の開館年

2. 改修の定義

2－1. 改修の分類

本研究では、改修を「『修繕』『更新』の行為を含みつつも、時代的変化、施設利用者からの要望を考慮しながら、積極的な施設の機能向上を目指し、施設を竣工当初以上の状態に改める行為」[註 5)]と定義する。さらに、改修を①～⑤に分類する（表 1）。

表 1. 改修の分類

①改修	修繕、更新を含みつつも、積極的に施設の機能向上をすること	
	修繕	傷んだり壊れたりした箇所を直すこと
	更新	建築や設備を新しいものに入れ替えること
②増築	床面積を増加させること	
③建替	同じ土地で以前の建築を取り壊して新築すること	
④移転	新たな土地に新築すること	
⑤移築	新たな土地に既存建築を移動すること	

2－2. 劣化の分類

施設や設備を使い続けることで生じる劣化は、時間の経過による「経年劣化」、使用される部材や設備の技術が革新され、新しいものに代替される「機能劣化」、社会的基準や通念の変化、利用者ニーズの向上に伴う「性能劣化」に分けられる[註 6)]。このうち本研究では「経年劣化」と、美術館特有の背景が予想される「性能劣化」を扱う。

3. 改修の実態

3－1. 改修の実施数

表 1 の分類を用いた改修実施数を web より確認すると、125 館 182 件であった（図 2）。1950 年代以前には行われておらず、1990 年代から徐々に増え、2010 年代が最も多く 92 件（50.5%）である。改修の分類に対する実施数を改修年ごとに見ると、図 3 のようになる。1970 ～ 80 年代は②増築の割合が高く、

1：日大理工・院（前）・建築　2：日大理工・教員・建築

1990 ～ 2020 年代は①改修の割合が高い。③建替は 2000 ～ 10 年代、④移転は 1960 ～ 70 年代と 2000 ～ 10 年代に見られた。⑤移築は 0 件であった。

３–２. 改修の背景と目的

背景と目的、コンセプト、実施事項を web と書籍より確認し、改修実施順にまとめると表２のようになる。背景を分類すると、劣化の分類に当てはめることができる（表３）。設置主体ごとに背景を見ていくと、「県立」は施設や設備の経年劣化、ユニバーサルデザインへの対応が目立つ。「市町村立」は市民や学校利用者の増加を挙げている館が見られ、文化施設としてだけでなく、より日常的に利用されることを期待している。「私立」は建築家が設計した建築、現代美術へのさらなる対応など、それぞれの館の特徴をより特化していくような改修が行われている。

４. 結論

開館から 20 ～ 40 年が経過し、施設や設備などの老朽化を改善したり、美術表現の変化に適応させるために、大規模リニューアルを行う美術館が増加している。今後も実施数は増加することが予想され、過去に行われた改修計画や成果について明らかにすることは、今後の美術館改修の際に指針となると考えられる。

表３. 背景の分類

	背景の分類	例	劣化の分類
A	劣化に伴う改修	施設や設備の老朽化 耐震改修	経年劣化
B	美術館の機能向上のための改修	展示室や収蔵庫の不足	性能劣化
C	ユニバーサルデザイン、 バリアフリーのための改修	エレベーター設置 トイレのバリアフリー化	
D	魅力向上のための改修	カフェ、ショップの充実 教育普及諸室の設置 入館者数の減少	

【脚註】

註 1) 運営主体にとらわれず、美術館の使命を社会に根づかせることを目的として、1952 年に設立された。388 館加盟（2017 年 5 月現在）。

註 2) 国公立美術館の活動の活性化を目的として、1982 年に設立された。144 館加盟（2017 年 6 月現在）。

註 3) 倉渕隆・小笠原岳・細野和則・落合宏・吉野一・濱興治・山名善之：国立西洋美術館本館における歴史的価値の保存・回復に着目した調査研究、空気調和・衛生工学会論文集 No.188、pp.17-25、空気調和・衛生工学会、2012.11

註 4) 島田遥・佐藤慎也：国公立美術館の建築物の更新に関する研究 展示室・収蔵室の床面積の変化に着目して、2014.3

註 5) 林恵子・小川清則・野口英世・元松経男・幸和紀・勝又英明：劇場・ホールの改修工事に関する調査研究、劇場演出空間技術協会技術委員会建築部会、2002.3

註 6) 草加叔也：ホール・劇場のリニューアル① 改修計画とは？、制作基礎知識シリーズ vol.31、地域創造レター 6 月号 No.170、地域創造、2009.6

【参考文献】

1) 暮沢剛巳:美術館はどこへ？ - ミュージアムの過去･現在･未来 -、廣済堂出版、2002.8

2) 並木誠士・中川理：美術館の可能性、学芸出版社、2006.8

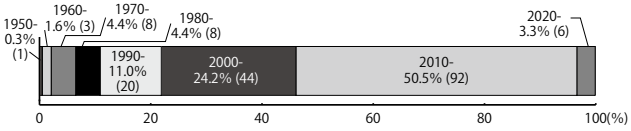

図２. 改修実施年

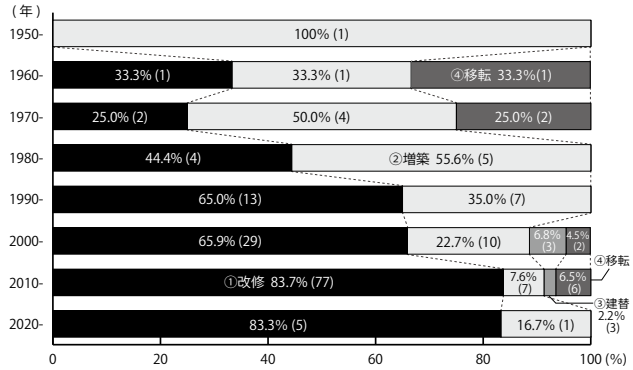

図３. 改修実施年ごとに見た改修の分類

表２. 改修の背景とコンセプト

	名称	設置主体	改修年	開館年	背景と目的	コンセプト、実施事項
1	神奈川県立近代美術館 葉山館	県立	2003 (新築)	1951 (本館)	・新たな美術状況の展開、社会的な要請の変化による ・多様な展覧会開催の必要性	・眺望に対して空間を開き、周囲の景観を損なわない自然との調和 ・高性能な展示室と収蔵庫、作品保存環境の充実 ・様々な教育普及活動に対応できる講堂と美術図書室の設置
2	川崎市民ミュージアム	市町村立	2007	1988	・入館者数の減少と、魅力の低減 ・文化施設としての費用対効果の低さ	・展示の充実と調査研究成果の公開 ・他施設との連携強化による集客アップ
3	五島美術館	私立	2012	1960	・空調、設備の経年劣化　・バリアフリー化　・展示室の不足	・吉田五十八建築との調和　・既存展示室の改修、小講堂を展示室化 ・既存事務室をバリアフリートイレとミュージアムショップに改修
4	東京都美術館	県立	2012	1975	・設備の経年劣化　・バリアフリー化	・既存の躯体を継承する　・設備更新と環境負荷の低減 ・ユニバーサルデザインと付帯施設の充実
5	山梨県立美術館	県立	2012	1978	・入館者数の減少　・教育普及室の不足 ・収蔵作品に対する常設展示室の不足	・パブリックサービス（カフェ、ミュージアムショップ）の充実 ・展示室の増築　・総合実習室、工房、美術図書室を新設
6	東京都庭園美術館	県立	2013	1983	・設備の経年劣化　・現代美術への対応 ・旧朝香宮邸のアール・デコ様式の復元	・ホワイトキューブの展示室の新設 ・現代美術や音楽、演劇、パフォーミングアーツへの対応
7	佐賀県立美術館	県立	2015	1983	・施設、設備の経年劣化 ・来館者に、より快適な空間で、芸術・文化に親しんでもらう	・エントランスの整備 ・床、天井、壁の張替え、塗替え
8	森美術館	私立	2015	2003	・多様化する現代美術の表現　・グローバル化の加速 ・現代アートをより深く多角的に体験する場の創出	・展示空間の高機能化 ・館内サインやチラシ、作品解説の多言語化
9	東京都写真美術館	県立	2016	1995	・施設、設備の経年劣化	・エントランスからアプローチ空間の改善 ・縦動線の強化
10	高松市美術館	市町村立	2016	1988	・施設、設備の経年劣化　・入館者数の減少 ・市民が誇りを持てる美術館　・施設の超寿命化と維持管理費の低減	・文化芸術の発信拠点としての機能強化 ・にぎわいや交流 を創出するための機能の充実
11	豊田市美術館	市町村立	2016	1995	・車いす使用者の鑑賞動線が不便　・セキュリティの強化	・エレベーター新設　・屋根、外壁の延命化
12	富山県美術館	県立	2017 (新築)	1981 (旧館)	・旧県立近代美術館の老朽化、耐震基準に満たない ・展示室中央の吹き抜けによる温湿度管理の困難さ ・企画、常設展示室の消火設備がスプリンクラー	・隣接する公園と一体利用 ・北陸新幹線開業と併せ、富山駅周辺の活性化 ・アトリエの充実、ワークショップの拡充
13	小林古径記念美術館	市町村立	2017	2001	・歴史に特化した博物館として再生 ・施設の超寿命化とバリアフリー化	・常設展示を郷土の歴史に特化し、恒常的な学習の場にする
14	福岡市美術館	市町村立	2019	1979	・施設、設備の経年劣化 ・文化施設、社会教育施設だけでなく、観光施設としての役割	・市民や学校利用者の増加 ・展示室と収蔵庫の改修、拡充 ・隣接する大濠公園からのアプローチ改善
15	宮城県美術館	県立	2024	1981	・施設の経年劣化 ・開館後 35 年間に変化した展示、収蔵や教育普及活動の課題 ・山形県を除く東北各県に県立美術館が設置され、役割の見直し	・未定